

コード	名称	区分	コード	名称
事業名 1044-1	大山田農林業公社支援事業	会計	01	一般会計
		款	06	農林業費
		項	01	農業費
		目	04	農業生産対策費
基本 施策	42 持続的で個性的な農業を實踐する	細目	306	生産調整推進対策事業
		細々目	53	農林業公社及び生産組合
行革大綱の重点事項番号		6, 7		
担当部課	コード	700100		担当者 氏名
	名称	大山田支所振興課		
			安岡健司	連絡先 47 - 1157 (内線)

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	大山田農林業公社	※対象件数
成果(どうする)	担い手への農地集積、農作業の受委託稼旋、営農集団の育成など、運営体制の強化充実を図る。	
根拠法令・要綱等	支所関係補助金等交付要綱	
開始年度	平成 7 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	大山田農林業公社の運営助成として次のとおり助成を行なった。 農地保有合理化事業実施に対する補助(平成21年度実績) -大山田農林業公社負担金(会費) 4,000,000円 -同運営助成金 3,000,000円	
社会情勢 の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
農地保有合理化事業	ha	目標	112	114		
		実績	112	116	114	114
		目標				
		実績				

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
農地流動化率	分母 大山田地域耕作面積 分子 農地流動化面積	%	目標	17	17		
			実績	14	15	17	17
特産品販売高	伊賀市内の特産品販売所(青空 ネット、道の駅、日帰り温泉施設 等)における売上高	千円	目標	15000	18000	19000	19500
			実績	17330	18414		

投入コスト	直接事業費計(A)	H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
A の 財 源 内 訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他	0	0	0	0
	一般財源	7,600	7,000	7,000	7,000
	事業投入人件費(B)	0.1人	0.2人	0.1人	0.1人
	フルコスト(A)+(B)	8,212	8,440	7,720	7,720

事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必 要 性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	○
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効 性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を達成するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	○ ○ 農地維持のための最後のセーフティネットとして有効である。
達成 度	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効 率 性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	農地保有合理化事業、農作業受託組織(有)大山田ファーム)、加工品開発事業の連携を図ることで効率性を確保する。また、農地の貸し手については、農業委員会設定の標準小作料を下回る小作料の設定により事実上の負担が生じている。

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	菜の花プロジェクト、白菜の新品種(伊賀紫)育種研究及び商品化などの新規事業の取り組み。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	菜の花プロジェクト推進事業を受託し平成22年度から本格的に菜種栽培、収穫・搾油及び製品化を行う。白菜の新品種(伊賀紫)育種研究及び商品化などの新規事業を取り入れた。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	土永瑞穂
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	今後は耕作放棄地の解消等、農業振興のために伊賀市全体の公社として検討して行くことが必要である。
現時点における課題、その他	農林業公社社員の高齢化による後継者不足
課題、その他に対する改善策	菜の花プロジェクト推進事業を受託し、本年度中に本格的に菜種栽培・収穫・搾油及び製品化を行う。
(いつまでに、何を、どうする)	